

# 塩津能の會 九州公演

喜多流

平成26年11月15日(土)午後2時開演

## 大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号 TEL 092-715-2155

<http://www.ohori-nougaku.jp>

### 【鑑賞券】

正面(一部指定席) \ 5,000円  
脇正面(一部指定席) \ 4,000円  
中正面(一部指定席) \ 3,000円

### 【電話予約・お問合せ】

塩津能の會後援会事務局  
TEL/FAX: 03-3330-6803

### 【オンラインチケット申し込み】

<http://shitsu-noh.com/ticket>

(クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會オフィシャルサイト  
<http://www.shitsu-noh.com>

詳しくはこちらへ→



主催: 塩津哲生の會

### 【会場案内】



■西鉄バス 黒門バス停…下車徒歩3分 大濠公園バス停…下車徒歩3分  
■地 下 鉄 大濠公園または唐人町…下車徒歩7分

### 能とは?

能も演劇の一つです。ただ、テレビや映画で見る演劇とはちよっと変わっていて、能は舞と音楽が中心です。「謡(うたい)」「謡声(うたいこゑ)」「謡子(うたいこ)」「謡器(うたいぶつ)」という楽器演奏に乗せて、舞踏的な動きで物語を進めてゆきます。簡単にいえば、能はミュージカルやオペラに近い存在といえるのです。

### 九州(福岡)での喜多流の歴史

大濠能楽堂を擁する福岡は喜多流にとって由縁の地です。流祖・喜多七太夫長能が黒田藩の庇護を受けたことで開流に繋がりました。また明治維新の動乱期にも喜多流の大先達、梅津只圓が黒田藩のお抱え能楽師として困難を乗り越え、福岡の能楽の隆盛を築きあげました。大濠公園能楽堂の中庭にあるのは只圓翁の胸像です。この由縁の地福岡に、またひとつ能楽・喜多流の新しい灯を燈すために、「塩津能の會」九州公演を発足致します。日本が世界に誇る伝統芸術、能楽の精華を、文化豊かに薫る福岡の地に、そして広く九州の地へとあらたに広げることを目指して活動に取り組んでまいります。

### 文化継承!

和風建築が減少し、畳の部屋がないという住まいも多く見られ、正座という礼儀作法すら出来ない、知らない人達が増加している現状にはとても不安を感じます。昨今文化発展向上の声はありながら、伝統文化の衰退が目につきます。能界の先人達も能の魅力の後世に伝えようと、明治維新も敗戦の困窮時もひたすらにその道を全うして来られました。喜多流の九州内での催しが激減した現状を何とか再興し、先人の思いを継ぎ伝えることが現代に生きる私達の使命と思えます。



箴



須磨源氏

番組

塩津能の會 九州公演

おはなし 初めて能をご覧になる方へ 塩津 圭介

仕舞 実 盛 塩津 哲生 友枝 真也 佐々木 多門 大村 定 大島 輝久

狂言 ぬけから シテ 野村 万緑 アド 吉住 講

能 前シテ(男) 塩津 圭介 後シテ(梶原景季) 箴 ワキ(旅僧) 坂苗 融

間(生田の里人) 野村 万緑

後見 笠井 陸 中村 邦生

地謡 渡辺 康喜 友枝 真也 大島 輝久 佐藤 寛泰 塩津 哲生 大村 定

大鼓 白坂 保行 小鼓 古田 寛二郎 箴 森田 徳和

半能 須磨源氏 後シテ(光源氏の霊) 塩津 哲生 ワキ(藤原興範) 坂苗 融

大鼓 白坂 保行 小鼓 古田 寛二郎 箴 森田 徳和

後見 狩野 丹秀 塩津 圭介

地謡 渡辺 康喜 友枝 真也 大島 輝久 佐藤 寛泰 佐々木 多門 大村 邦生

(終了予定午後五時頃)



塩津 哲生

1945 喜多流職分塩津清人の長男 熊本市出身。  
1950 「桜川」の子方で初舞台。  
1957 「経政」にて初シテ。  
1959 十五世喜多流宗家故喜多実師のもとへ内弟子修行のため上京。  
1971 「道成寺」を抜き独立。  
1986 日本能楽会会員、重要無形文化財総合指定。  
1990 今上天皇即位の礼で「石橋」獅子を勤める。  
1996 平成六年より流儀の若手育成を一手に担い今日に至る。  
2006 芸術選奨文部科学大臣賞受賞。  
2007 親世寿夫記念能楽賞受賞。  
2008 紫綬褒章受賞。  
塩津能の會主宰 札幌・東京・福岡・熊本・大牟田・竹田 各地に哲門会主宰。



塩津 圭介

1984 喜多流職分塩津哲生の長男として東京に生れる。  
1987 喜多流例会能にて、初子方「隅田川」を勤める。  
1996 子方の卒業試験とも言われる「鳥帽子折」を勤める。  
1997 大分県竹田市塩津清人記念能舞台落成能にて初シテ「田村」を勤める。  
2004 若者の、若者による、若者のための能「若者能」をたちあげ、以後毎年公演。  
2008 東京学芸大学教育学部卒業。  
2009 APU立命館アジア太平洋大学非常勤講師に就任。  
2011 喜多流青年能にて能楽師の登竜門「狸々乱」を抜く。

あらすじ 箴

旅をしている僧が一人の男と出会う。男は源平の生田の森の合戦で勝利した梶原源太景季の霊であった。名木生田の梅の謂れや景季の武勲の物語を聞かせ、梅の花の陰に消える。後半は生前の武將の姿で現れ、合戦の奮闘の様を見せる。箴とは矢を入れて腰に着ける武器の一種。景季は箴に梅の花を挿して合戦に臨む風流人でもあった。



能面/平太

あらすじ 須磨源氏

光源氏を主人公にした数少ない曲のひとつである。日向の国宮崎の社宮藤原興範が伊勢参宮の途中に須磨の浦に立ち寄る。光源氏の旧跡に在る須磨の若木の桜を眺めている処に、今は天上の月宮に住むという光源氏の霊が月夜の須磨の海原に現れる。浪の花のような白衣の袖を翻し爽やかな舞を舞ってみせる。興範に一夜の夢を楽しませ山より明ける夜明けとともに去ってゆく。



能面/中将